

事前評価報告書

事業名: 桜ヶ池キャンプ場

実行団体: 株式会社ガラバゴス

報告者: 株式会社ガラバゴス

資金分配団体: 公益財団法人 東近江三方よし基金

実施時期: 2021年3月～2023年2月

対象地域: 富山県南砺市

直接的対象グループ:

間接的対象グループ:

概要

事業概要
桜ヶ池キャンプ場を利用して障がい者施設の施設外労働およびひきこもりの方、地元住民の働く場所を創出するコミュニティづくり。 地元企業から材料を仕入れ、薪の製造販売。地元柿農家の剪定枝の回収し炭化加工後、堆肥としての販売。 炭素循環型農法の普及推進。
中長期アウトカム
事業終了後3年後に桜ヶ池周辺において地域コミュニティが構築され、障がい者施設の利用者やひきこもりの方など就職困難者が働く場を確保し、幅広い年齢層の方々の交流が活性化された地域や社会になる。
短期アウトカム
No.1 障がい者施設の利用者やひきこもりの方が、仕事を通して交流する場ができ、世代を問わず繋がりができている
No.2 季節を問わず雇用創出、賃金を引き上げた状態で働いている。
No.3 障がい者施設の利用者やひきこもりの方の働く場ができ、柿の木を再利用することで問題となっていた柿の木と、障がい者の方の働く場が解決される

事業の背景

(1) 社会課題
施設外就労の一般的な作業の賃金が低い。仕事のある時期と無い時期の差が激しい。 ひきこもりの方の社会復帰。 各世代の人々の直接的接点が生まれる場が少ない。
(2) 課題に対する行政等による既存の取組み状況
社会福祉協議会が、日常生活自立支援事業としての忘れのある高齢者（認知症高齢者）、知的障がい者、精神障がい者等の方で、福祉サービスの利用手続きや日常的な金銭管理を、自分ひとりの判断で行うことに不安のある方に対して定期訪問、金銭管理サービスを行なっている。しかし、社会参加や地域住民との交流、就労への支援は不十分である。

評価実施体制

内部/外部	評価担当分野	役職等
内部		代表取締役
外部		

評価実施概要

評価実施概要
6月26日（土）旅川福祉交流館にて、ヒアリングと事業の内容のチェックを行った。 地元施設との連携について同席していた社会福祉法人マーシ園とすり合わせた。 事業実施の現場となる桜ヶ池自遊の森キャンプ場の採択日程について確認。 過去の障がい者およびひきこもりの方の雇用の経験と、南砺市の現状について協議した。
自己評価の総括
南砺市の引きこもりの方の現状が、まだあまり把握できていないということが明らかになった。また、引きこもりの方へのサポート体制も今から整えていく必要がある。 当事業で求められることは、障がい者と引きこもりの方の雇用の創出だけではなく、彼らが働くことを通し役割や生きがいを感じ、関係者との絆をつなぐ成功体験（自己肯定感）を得ることである。同時に地域の高齢者等と事業を通し交流し、コミュニティの一員として参加できる場を目指す。 事業を円滑に進めるにあたり、他県の成功事例を参考に必要がある。

評価結果の要約

評価要素	評価項目	考察（妥当性）	考察（まとめ）
課題の分析	①特定された課題の妥当性	高い	対象者である障がい者や引きこもりの方の雇用環境は、農業などの天候に左右される事業において安定した雇用を確保することが難しい。特に農閑期である冬は降雪などの影響により、深刻な現状である。 対象者の中でも障がい者手帳を持っていない引きこもりの方々は、ハンディキャップがあっても、国や市町村からの支援を受けられない現状である。その為一般企業は、仕事の能力が低い方や、人とのコミュニケーションが苦手な方にも、他の社員と同等の給与を支払わなければならないので、企業の負担が大きくなる。 上記の状況から、対象者が職場の中で居場所がなくなり、仕事が長続きしなくなるケースが多い。したがって、通年を通し安定した雇用環境と、障がいを有する方へ必要な給与をだせる業務環境が求められる。
	②特定された事業対象の妥当性	高い	本事業が取り組む課題を解決する為には、対象者の現状の調査、地元障がい者施設との連携が必要となる。 地元障がい者施設が抱えている問題として、対象者の就労や役割発揮の場が少なく、通年的に適切な給与が得られる環境がない。そのため障がい者は施設に、引きこもりの方は自宅に止まり、社会との交流の機会が少なくなっている。南砺市の対象者が有する課題の解決が求められる。 南砺幸せ未来基金がテーマとして掲げる孤立の解消に沿う
事業設計の分析	③事業設計の妥当性	高い	南砺市での対象者の洗い出しと事業参加へ、社会福祉法人マーン園及び関係組織との連携を重視した。 薪づくりと柿の剪定枝の炭化作業を、自然豊かで騒音などが支障にならない桜が池で行うことで、対象者が自分のペースで通年仕事ができ、必要な給与を確保する環境を設定した。 同時に、地域の住民自治組織にも事業の趣旨を説明し、高齢者を含め参加や協力を依頼することで、南砺市の地域課題でもある老若男女幅広く交流することができ、誰一人取り残さない街づくりに合致する。
	④事業計画の妥当性	高い	南砺市における事業はゼロスタートではあるが、休眠預金の活用により、地元障がい者施設との繋がりがおよび資金的な支援を受けることにより、事業をスタートすることができる。 富山市で同様の事業を行っており、南砺市での2年間の事業遂行で経営安定が期待できる。このため助成期間だけで終わる事業ではなく、終了後も継続可能な事業を目指すことができる。

事業計画の確認

重要性（評価の5原則）

今回の事業は、現在活用されていない桜が池キャンプ場で、薪づくりや柿の剪定枝の活用など炭素循環型農法の普及と推進を、障がい者とひきこもりの方の雇用を通し実現を目指すなど社会課題の解決に大きく寄与するものである。また2年間の事業終了後も継続が予定され、桜ヶ池周辺において対象者だけでなく、幅広い年齢層の方々の交流が活性化された地域や社会になることを目標としており、南砺市が目指す誰一人取り残さないまちづくりにも叶うものである。

今後の事業にむけて

事業実施における留意点

直接対象者の情報を地元障がい者施設と連携して詳しく分析し、事業を円滑に遂行する。
また、周りの農福連携等の活動をしている団体とも連絡を密に取り、共存共栄を目指す必要がある。

添付資料